

第二編 會計ノ關スル法令 第三章 恩給、退官賜金

五十四

- 一、等傷終身不具トナリ自ハ年金三十圓以上四拾圓以下トス (二)、二等傷終身不具トナリ自ハ年金二十圓以上三十圓以下トス (三)死亡給助 一、寡婦及相繼ノ孤兒アル時ハ年金三十圓以上五十圓以下トシ寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス 二、寡婦孤兒ナキ時ハ祖父母及ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニ一時五十圓以上百圓以下ヲ給ス (四)療治料 傷疾又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス (五)祭祀料 一、勤緞一年未滿シテ奉職中病亡スル者ハ前項祭祀料ノ外一時五十圓以上百圓以下ノ額ヲ給ス 金三圓以上五圓以下ヲ遞加増給ス 二、職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項祭祀料ノ外一時五十圓以上百圓以下ノ額ヲ給ス 給助金ノ廢停 (一)公權ヲ停止セラレタル者及懲罰免職者ハ給助ヲ受クルヲ得ス (二)一、俸給ヲ受クルノ官職ニ就キタル時間 二、公權停止中 三、失踪中 四、許可ヲ得スシテ外國ニ行キ一年以上歸朝セザル間、以上四場合ニ於テハ其間給助ヲ停止ス (參考) 一、給助例ニ依リ退職年金ヲ受クル者官吏恩給法ニ依リ恩給年金ヲ受クルニ至ルト雖モ之ヲ停止スルノ明文ナキナリテ兩者トモ支給スヘキ義ナリ 廿六年一月十一日 大藏省ト協議濟
- 一、給助例ニ依リ二個ノ退職給助ヲ受クルニ至ルトキハ矢張各別ニ支給スヘキ義ナリ 二十四年七月一日 京都府ヘ指令參照
- 一、給助例ニ依リ一旦給助證書ヲ得ハ他日再任ノ後懲罰免職スルモ前記ノ給助金ハ剝奪スルヲ得サル義ナリ 二十一年一月十一日 静岡縣ヘ指令參照
- 一、給助例第二條中ノ各項ニ該當スル者アルトキハ各其各項ノ給助金ヲ支給スルノ義ナリ 十六年一月廿七日 滋賀縣ヘ指令參照
- 一、看守ノ退職給助ハ債權者ノ差押ヲ拒ムヲ得サル義ナリ 二十四年十二月十一日 滋賀縣ヘ指令參照
- 一、看守休職期限ハ勤緞年數ニ算入スル義ナリ 二十四年七月十日 北海道廳ヘ總務局長回答參照
- 一、給助停止條件ニ俸給ヲ受クル官職トアル解釋ニ付區々ノ既アリト雖モ大概左ノ如シ 一、停止スヘキモノ 辭令ヲ受ケ官吏服務規律ノ支配ヲ受ケヘキモノ例ヘハ監獄ノ傭員授業手等是レナリ 二十四年四月八日 滋賀縣ヘ回答參照
- 二、停止セザルモノ 地方團體ノ有給吏員、執達吏、公證人、押丁、小使等小者ノ類 二十二年十月一日 熊本縣ヘ二十五 年一月十五日 石川縣ヘ指令參照
- 一、給助證書ヲ紛失盜難ニ罹リタル場合ハ更ニ謄本ヲ下付シ代用セシメ差支ナキ義ナリ 二十五年十二月十三日 滋賀縣ヘ回答參照

第二編 會計ニ關スル法令 第三章 恩給、退官賜金

五十五

- 一、看守吊祭料及遺族扶助料ハ核算中雜給ノ項看守賜金ノ目ナド整理スヘキ義ナリ 廿五年二月十九日 內務大臣兩大臣協議濟
- 一、看守ヨリ列任以上ニ昇任シタルトキハ一旦打切り給助金ヲ支給スル義ナリ
- 一、巡查看守給助例中ノ勤緞ノ件 明治十五年內務省達乙六十八號 十二月十五日發布
- (摘要) 給助例中勤緞ノ勤注巡查看守相互昇任ノ場合ヲ勤緞ト看做ハ一地方内ノ昇任者ニ限ル義ナリ
- 一、巡查看守給助年金支給方 明治二十年內務省訓令第二十三號 四月七日發布
- (摘要) 年金ハ毎年三月、九月ノ兩度ニ前六ヶ月分ヲ支給シ、退職死亡傷疾ノ翌月ヨリ支給ヲ始メ死亡ノ月ハ全額ヲ支給ス、但廢止停止ノ場合ニ於テハ日割計算スヘシ
- 一文官列任以上退職賜金ノ件 明治二十三年勅令第九十八號 六月二十日發布
- (摘要) 在官滿一年以上ニシテ退官シタル者ハ退官當時ノ俸給半ヶ月分ナケ年ニ當テ在官年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但一旦退官賜金ヲ受ケ再任シタルトキハ再任ノ日ヨリ在官年數ヲ起算ス
- 恩給ヲ受クル者並自己退官者又ハ懲戒者クハ刑罰ノ裁判ニ依リ免官者ハ本令ノ賜金ヲ給セズ
- (參考) 明治十六年十二月以前一ケ年未滿ニシテ退官シタル者及二十三年六月以前五年未滿ニシテ退官シタル者再任シタルトキハ前後官奉職年月數ヲ積算シ退官賜金ヲ給與スヘキ義ナリ 二十三年十月七日 大藏省主計局回答參照
- 一、恩給扶助料每期受領ノトキ本人生存證書ヲ添付スヘキ件 明治二十三年大藏省令第二十四號 十月一日發布
- (摘要) 官吏恩給法及遺族扶助料ヲ受クルモノハ每期年金受領ノトキ受領者ノ生存證書ヲ恩給證書ニ添付差出スヘキ義ナリ
- 一、巡查看守給助例施行ノ際一時慰勞金支給ノ件 明治十五年太政官達第四十二號 七月十七日發布
- (摘要) 給助例施行ノ際在職滿二年以上五年未滿ノ者退職シタルトキハ施行ノ日ヲ限界トシ勤緞年數ニ應ジ退職當時ノ月俸半額ヲ在職一ケ年ニ割當テ一時慰勞金ヲ支給スヘキ義ナリ

一 巡查看守慰勞金支給ノ件 明治十五年太政官達第六十六號 十二月十二日發布

(摘要) 巡查看守補助例實施後人員減少等ニ依リ免職シタルトキハ奉職滿五年未滿ノ者ハ勤続年數ニ應シテ前項ノ割合ヲ以テ(月俸半々月分ナリ)ケ年ニ割宛テ一時慰勞金支給スヘシ

(參考) 本令人員減少等ニ依リ免職云々トアリ、巡查ヨリ警部ニ看守ヨリ書記看守長ニ昇任シタル者並ニ甲乙相互轉任(勤続ヲ除ク)ノ場合ニ於テハ慰勞金給與スヘカラサルカ如ク解釋スルモノアリト雖モ右ハ總テ前職ヲ免セラレ再任シタルモノト看做シ一旦打切り給與スヘキ義ナリ 廿二年中奈良縣へ指令、卅一年六月長野縣、

(注意) 退官賜金慰勞金等ノ類ハ受領者ノ權利ト認ムヘキ性質ノモノニアラサルヲ以テ本人ヨリ請求スルノ權利ナキモノトス故ニ辭令交付ノ日迄請求シ得ヘキ義ニアラサルナリ

第四章 賞與罰俸

一看守押丁賞與規則ノ件 明治二十二年內務省訓令第一號 一月十一日發布

(摘要) 看守押丁ニシテ左ノ功勞アルトキハ警察賞與規則ニ依リ適度ニ應シ金拾五圓以下ヲ賞與スヘシ 一、反獄ヲ鎮制スルニ當テ 二、自己ノ看守ニアラサル在監人ノ逃走ヲ捕獲スルニ當テ 三、監獄内水火風震及流行病ニ付 四、自己ノ危難ヲ顧ミス在監人ノ生命ヲ救援スルニ當テ、以上功勞著シキ者ニ各項毎ニ賞與ス

(參考) 看守トシテ職務上功勞アリシ者賞與以前懲罰免職セラレタルモ尙之ヲ賞與スルコトヲ得ル義ナリ 二十四年二月十八日賞與ハ功勞アリタル地方ノ經費ヨリ賞與スルハ勿論、職務上ノ功勞ニ付特志報勞金ヲ受クルモ賞與スルヲ妨ケス但報勞金ヲ受クルハ本廳長官ノ認可ヲ要ス 佐賀縣へ指令參照

明治二十一年內務省訓令第二十一號 十二月警察賞與規則看服但明治三十年訓令第十三號 二十四日ヲ以テ全規則中賞與金額ヲ改正セリ

一 官吏懲戒例 明治九年太政官達第三十四號 四月十四日發布

(摘要) 懲戒ノ法三種トス 一、譴責 二、罰俸 三、免職トス 罰俸ハ一ヶ月分十分ノ一ヨリ少カラス三ヶ月分ヨリ多カラサル俸ヲ奪フ俸ヲ追スルノ法其一月給俸半額以下ハ一月俸中ニテ追フシ其以上ハ毎月給俸ノ半額ヲ徵ス

(參考) 官吏懲戒例ニ於ケル罰俸ハ減俸ト同シケ俸給中ヨリ之ヲ控除シ雜收入ニ編入セサル義ナリ

一看守懲罰例 明治十六年內務省達乙第十七號 四月二十日發布

(摘要) 巡查懲罰例ニ準據スヘキ義ナリ (參考) 巡查懲罰例 明治九年內務省達乙 九十二年八月五日付ニ依レハ懲罰ヲ分テ三種トス阿責、罰金、免職トス 罰金ハ一ヶ月俸給百分ノ一ヨリ少カラス一ヶ月分ヨリ多カラサル額ヲ科ス罰金完納前免職又ハ死亡シタルトキハ追徵ヲ免ス 罰金ハ毎月ノ俸給ヨリ控除シ月俸ノ三分ノ一ヲ超ヘサル額ニ止ム官物ヲ遺失毀損スルモノハ相當ノ罰金ヲ科シ尙其代價ヲ賠償セシム

(參考) 巡查看守罰金ハ免職當月ノ分ハ徵收ヲ免除スヘキ義ナリ 廿五年八月八日 兵庫假留監へ指令參照 巡查看守罰金ハ月俸ヨリ控除シ雜收入ニ編入セサル義ナリ

巡查看守在職中ノ過失ヲ判任以上ニ任用シタル後發覺シタルトキノ處分方ハ巡查看守懲罰例ニ依ルヤ將々官吏懲戒例ニ依ルヤノ問題アリ右ハ官吏懲戒例ニ從ヒ現在ノ身分ニ依リ處分スヘキ義ナリ 二十八年十二月十八日 岡山縣へ文書課長回答參照

第五章 旅費日當

一 內國旅費規則 明治三十年勅令第三百三十三號 九月廿七日發布

(摘要) 瀛車旅行ハ哩數ニ應シ瀛車賃ヲ、水路旅行ハ海里數ニ應シ船賃ヲ、其他ハ陸路旅行トシ哩數ニ應シ車馬賃ヲ給ス但宿

第二編 會計ニ關スル法令 第五章 旅費日當

泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ旅費ヲ支給シ水路旅行ハ宿泊料ヲ給セス
 強雨積雪道路險惡ノ爲メ定額ノ馬車賃ニテ支辨シ難キトキハ定額二倍以内ノ車馬賃ヲ給スルコトヲ得
 陸路六里未満、瀧車十里未満、水路十里未満ハ日當ヲ給セス
 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地マテ瀧車賃、瀧船賃、車馬賃ニ依リ定額ノ二倍ヲ支給ス
 官船ニテ旅行シ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ食卓料ヲ給ス

旅 費 額

等 級	瀧車賃 每哩	船賃 每二海里	車馬賃 每二里	宿泊料 毎一夜	日 當 毎一日	食卓料 毎一日
一 等	親任官 六 錢	七 錢	三十五錢	三 圓	二圓五十錢	一圓七十錢
二 等	勅任官 五 錢	六 錢	三十錢	二 圓	一圓五十錢	一圓五十錢
三 等	奏任官 四 錢	五 錢	二十錢	一圓五十錢	一 圓	一圓二十錢
四 等	列任官 三 錢	四 錢	十五錢	一 圓	五十錢	九十錢

一 警察官吏其他内國旅費概則 明治三十年内務省令第二十七號 十月七日發布

(摘要) 巡查看守雇員ノ旅費ハ甲號表、押丁給仕小使職工ノ旅費ハ乙表ニ依ル其支給方ハ内國旅費規則ニ依ル
 試補見習其他官吏ノ待遇ヲ受クルモノノ旅費ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外其待遇ニ依リ本官相當ノ額ニ依ル其支給方ハ同額
 旅費ノ定額ハ地方ノ狀況ニ依リ之ヲ減少シ若クハ其一部ヲ支給セサルコトヲ得

甲 號 表

汽車賃 每哩	船 賃 每二海里	車馬賃 每二里	宿泊料 毎一夜	日 當 毎一日	食卓料 毎一日
金 二 錢	金 三 錢	金 十 錢	金 七 十 錢	金 三 十 錢	金 五 十 錢

乙 號 表

汽車賃 每哩	船 賃 每二海里	陸路雜費 每二里	日 當 毎一日	食卓料 毎一日
金 一 錢 五 厘	金 二 錢	金 六 錢	金 三 十 錢	金 三 十 錢

一 囚徒及護送官吏半價乘車ノ件 明治二十年勅令第十二號 五月十八日發布

(摘要) 私設鐵道條例第二十二條參照
 (注意) 明治二十一年内務省訓令第二號警察官及囚人護送官吏ニシテ半價ヲ以テ乘車シ得ル場合ニ於テハ定額旅費半減支給ノ
 件ハ三十年勅令第三百三十三號内國旅費規則ノ發布ニ依リ消滅シタル義ナリ
 (旅費參考) 府縣監獄醫ハ列任待遇ナルヲ以テ三十年省令第二十七號ニ依リ列任定額ノ旅費ヲ給シ教師ハ現今官吏ノ待遇
 ニアラサルヲ以テ全省令ニ依リ適宜支給シ得ヘキ義ナリ
 休職看守ヲ復職ノ爲メ召募シタルトキハ召募旅費(定額二倍)ヲ支給スル義ナリ 二十九年四月十五日
 四人護送ノ繩取人夫モ私設鐵道條例第二十二條ニ依リ半價乘車シ得ル義ナリ 二十五年六月三十日
 非職官吏在職中ノ職務ニ付刑事被告人トナリ出廷シタル場合ノ旅費ハ本件有罪ナレハ旅費ヲ給セス無罪ナルトキハ定額旅費ヲ給

第二編 會計ニ關スル法令 第六章 物品會計

スル義ナリ 二十四年五月八日 茨城縣へ書記官通牒參照
 甲地ニ於テ缺席判決ヲ受ケタル者乙地ニ於テ逮捕セラレ甲地ニ押送管理ノ未被告人ハ人送ノ爲メ無罪トナルト雖モ歸郷旅費ヲ給スルノ限ニアラス 二十七年五月八日 奈良縣へ指令參照
 在監囚人刑事參考人トシテ裁判所ニ出廷シタルトキノ旅費日當ハ監獄署ハ本人代理トシテ刑法付則ニ定ムル定額ノ旅費ヲ裁判所ニ請求シ償却ヲ得タルトキハ押送費及出廷地在監中ノ實費ヲ引去リ殘餘ハ本人ニ支給スヘキ義ナリ但押送官吏ノ旅費ハ刑事ニ在テハ請求ノ限ニアラス 二十六年九月十一日佐賀縣へ
 官吏職務上刑事被告人トナリ裁判所ニ出廷シタル時ハ官等ニ相當スル定額ノ旅費ヲ給スル義ナリ但無罪免訴ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ限ル 二十四年六月二十二日 北海道廳へ總務局長回答參照
 轉任又ハ新任ノ爲メ他所ノ者ヲ呼出シ採用廳へ到着スルモ休暇其他ノ事故ノ爲メ即日辭令書ヲ交付セサルトキハ交付當日迄日當ヲ支給スル義ナリ 二十年四月三十日 大藏省總務局長通牒參照
 一官吏職務上證人トシテ裁判所ニ出廷シタル時旅費ノ件 明治十七年太政官達第五十七號 六月十三日發布
 (摘要) 官等ニ相當スル定額ノ旅費ヲ支給スヘキハ勿論本人ヨリ旅費日當ヲ裁判所ニ請求シ償却ヲ得タルトキハ其金額ヲ雜收スニ編入スヘシ但被告事件無罪又ハ免訴トナリタルトキハ請求セサル義ト心得ヘシ
 一押送規則關係囚人刑事被告人押送者ノ旅費 明治三十年勅令第四百十五號 十一月廿四日發布
 (摘要) 押送官吏ノ旅費ハ押送者ノ爲メ各官署ノ區別ニ從ヒ各其所屬ノ經費ヲ以テ支辨ス故ニ他廳府縣ノ請求ニ依リ送還シタルトキハ其送還ヲ求メタル廳府縣ノ負擔トス(同則第五條參照)

第六章 物品會計

物品會計規則 明治二十二年六月十一日 勅令第八十四號

物品會計規則

第一條 此ノ規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル器具器備品消耗品動物其ノ他一切ノ動産ヲ云フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關ルモノハ各其ノ規則ニ依ル
 第二條 物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス
 第三條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ
 第四條 物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品會計官吏トス
 第五條 總テ物品ハ責任アル官吏ノ保管ニ付スヘシ
 第六條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ定メタル規程ニ據リタル命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スルコトヲ得ス
 第七條 物品會計官吏ハ其ノ故意怠惰ニ由リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ辨償ノ責ニ任スヘシ
 第八條 各省大臣ノ定メタル規程ニ據リ各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品會計官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得
 第九條 物品會計官吏ハ各省大臣ノ命シタル代理官ノ所爲ニ就テハ其ノ責任ヲ免ルコトヲ得
 物品會計官吏ノ代理官ハ其ノ代理セル所爲ニ就テハ物品會計官吏タルノ責任ヲ免ルコトヲ得ス
 第十條 物品會計官吏ハ物品ノ出納帳簿ヲ備ヘ其ノ出納ノ事實ヲ登記スヘシ
 物品ノ消耗毀損亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品會計官吏ノ保管ヲ離ルルヲ出トシ買入生産及其ノ他其ノ保管ニ屬スルヲ納トス
 第十一條 常時出納チナサレハ倉庫若ハ貯藏所ノ物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若クハ物品會計官吏交替ノ際検査ノ官吏ヲ命ジ目録ト現在品ノ照合チナサシメ其ノ調書ヲ作ラシムヘシ

第十二條 在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支那部局ニアル物品ハ各省大臣ヨリ毎年一回若ハ物品會計官吏交替ノ際檢査ノ官吏ヲ命シテ現在品及出納ノ實況ヲ調査セシメ其ノ調査ヲ作ラシムヘシ

第十三條 第十一條第十二條ノ調査ニハ檢査官吏及檢査ヲ受タル物品會計官吏若ハ特ニ命セラレタル立會人之ニ署名スヘシ

第十四條 (二十四年勅令第七十七號ヲ以テ削除)

第十五條 物品會計官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受ル爲メ毎年度間ニ執行シタル物品出納ノ豫算書ヲ製シ年度後四箇月以内ニ證一添書類ヲ添ヘ之ヲ本廳大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交替ヲナシタルトキ前任官吏ハ前項ニ準シテ計算書ヲ差出スヘシ但シ前任官吏死亡其ノ他ノ事故ニ由リ自身計算書ヲ調製スル能ハサル場合ニ於テハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條 前條第二項但書ニ據リ調製シタル計算書ハ責任ヲ有スル物品會計官吏ノ自身ニ調製シタルモノト同一ニ見做シ會計檢査院ニ於テ檢査判決ヲナスヘシ

第十七條 各省ノ部局長若ハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ第十五條計算書ノ下檢査ヲ執行シ其下檢査書ヲ添付シテ之ヲ會計檢査院ヘ送付スヘシ

第十八條 常時出納ヲナササル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支那部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調査ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計檢査院ニ求ムルコトヲ得

第十九條 物品會計官吏ハ身元保證ニ關スル規則ハ總テ會計規則出納官吏身元保證ノ例ニ據ル

第二十條 物品出納ノ順序ハ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第二十一條 官吏ノ職務上必要ナル物品ノ交付及其交付ヲ受ケタル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ヲ規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

一 內務省所管廳物品出納規程 明治二十二年內務省訓令第三十六號 九月七日發布

(摘要) 物品ヲ分テ備品消耗品ノ二種トシ、物品出納ノ命令ハ部局長ニ之ヲ委任ス此規程ニ於テ部局長ト云フハ本省庶務局長、廳庶務局長、集治監典獄ヲ云フ集治監分監ニ在テハ分監長ヲ以テ部局長代理トナス

物品會計官吏ハ本省庶務局用度課長、警視廳官房第二課長、府縣內務部第四課長、集治監第三課長トス但便宜ニ依リ各次席者又ハ各小支那部局ニ該官吏ヲ命シ又ハ置クコトヲ得

部局長ハ其廳必需ノ物品中其品種、品目、數量ヲ規定シ置キ物品會計官吏ヲシテ直ニ出納セシムルコトヲ得

支那部局ヨリ物品ヲ購求スルトキハ物品取扱主任者ハ支那部長ノ檢査ヲ受ケタル請求書ヲ物品會計官吏ニ差出シ、物品ノ交付ヲ受ケタルトキハ共用物ハ取扱主任、專用物ハ各自ノ證書ヲ徴スヘシ、不用又ハ引換ヲ要スルモノハ返納書ヲ添ヘ之ヲ還付シ更ニ請求ノ手續物品出納整理ノ爲メ左ノ帳簿ヲ備ヘ置クヘシ、備品出納簿、消耗品出納簿、何々出納簿尙其他ニ備品內簿、消耗品內簿、假渡簿其他補助簿ヲ設クルハ適宜トス、物品ノ授受ハ時々必ス帳簿ニ登記スヘシ

物品ノ保管責任ハ各其保管者即物品會計官吏、物品取扱主任及各自用者ニ於テ之ヲ保管スヘシ 保管ノ責アル官吏其物品ヲ故意、怠惰ニ依リ亡失毀損シタルトキハ相當代價ヲ辨償セシムヘシ

物品會計官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受ケル爲メ毎年度經過後三ヶ月以内ニ檢査院ノ定メタル程式ニ依リ物品出納計算書ニ証憑書類ヲ添ヘ部局長ニ差出シ部局長ハ下檢査ヲ爲シ檢査院ニ送付スヘシ不用ニ屬スル物品及修補ニ堪ヘ難キ物品ハ部局長ノ指揮ヲ受ケ處分スヘシ物品出納ノ順序ハ部局長ニ於テ之ヲ定メ內務省ニ報告スヘシ

一 在監人所持品保管ノ件 明治二十四年內務書記官訓牒 七月二十二日付

(摘要) 在監人所持金ハ監獄則ニ依リ典獄之ヲ領置スト雖モ其出納ハ物品會計規則ニ依リ取扱フヘキ筋合ナリ

(參考) 在監人入監ノ際携有スル貨物ノ內民事訴訟法第五百七十條(差押フヘカフサル物品)ノ場合ヲ除ク外差押ヲ拒ムコトヲ

第二編 會計ニ關スル法令 第七章 領置金品保管

得ス 二十四年八月十八日
 警察局長通牒參照
 在監人所持品及遺失物賊贓拾得品等ハ廳府縣ノ物品會計官吏ノ監督内ニ屬スルモ各監獄署及支窓物品取扱主任ニ於テ保管シ中ケ年
 又ハ一ケ年報ヲ微シ記帳可然云々 廿四年八月二十二日庶務警保
 兩局長ヨリ一般ニ通牒參照
 在監人所持品ノ義ハ物品會計規則ニ依リ取扱フヘキ答ノ處右所持品ノ科目ハ單ニ在監人所持品トナシ其内譯ハ衣服雜品ノ二目ヲ
 以テ記帳シ又検査院ヘ証明スヘキ計算書モ右ニ準シ調製ノ上其証憑書類ハ典獄ノ証明書ヲ同院ヘ差出サレ可然云々 月廿六日検査
 院部長面
 答參照
 監獄則ニ依リ典獄ノ領置スル在監人ノ所持品、所持金賊贓拾得品、拾得品等出納計算ノ検査及責任解除ハ府縣知事ヘ委托セラレタ
 リ 二十五年三月三日
 會計検査院長署名參照
 聯合府縣ヨリ押送ノ囚人被服ハ送還等ノ費用ヲ要シ手數不少ニ付各發送府縣ニ於テ在府縣獄囚徒費ヲ以テ調製シ保管轉換ノ手續
 ナナスヘシ 二十四年七月二十二日三池集治監照會ノ處
 警察局長ヨリ一般ニ通牒參照

第七章 領置金品保管

一 保管金規則 明治二十三年法律第一號 一月四日發布
 (摘要) 政府ニ於テ保管金私金ハ左ノ計算法ニ依リ滿三十年ヲ過キテ拂戻ノ請求ナキトキハ政府ノ所得トス但特ニ法律ヲ以
 テ失權ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル 一、保管ノ期限アルモノハ其翌日ヨリ 二、保管ノ期限ヲ定メサルモノハ保管ノ
 翌日ヨリ 三、訴訟ノ爲メ拂戻ヲ請求スル能ハサル場合ニ於テハ裁判確定ノ翌日ヨリ各失効期限ヲ起算ス
 保管金ハ法令ノ定ムル所若クハ契約ニ依ルノ外利子ヲ付セス
 保管證書ハ賣買讓與書入質入ヲ許サス
 保管金ノ受渡ニ關スル證券印稅ヲ免ス

一 保管金取扱規程 明治廿六年大藏省令第二十號 九月二十日發布

(摘要) 現金有價證券ハ權利者ヨリ寄付スルモノト官廳ヨリ寄付スルモノトノ二種ニ分チ取扱フヘシ
 取扱官廳ニ於テ權利者ヲシテ現金又ハ有價證券ヲ寄付セシムルトキハ寄付通知書ヲ權利者ニ交付ス、權利者ハ之ニ現金又ハ有價
 證券ヲ添ヘ金庫ヘ差出スヘシ、金庫ハ保管證書ヲ作り權利者ニ交付スヘシ
 官廳ニ於テ現金又ハ有價證券ヲ寄付スルトキハ送付書ヲ添ヘ金庫ニ送付スヘシ金庫ハ領收證書ヲ作り之ヲ寄付官廳ニ交付スヘシ
 數人ノ權利者ニ屬スル現金ヲ取纏メ寄付スルトキハ送付書ニ仕譯書ヲ添付スヘシ權利者不明ナルトキハ其旨ヲ送付書又ハ仕譯書
 ニ記入スヘシ
 取扱官廳ハ保管金ノ受渡ヲ證明スル爲メ其廳及取扱主任官ノ印鑑ヲ金庫ニ送付ス其改印又ハ主任官變更ノ場合ニ於テハ亦然リ但
 有價證券寄付トキハ利札受渡ヲ證明ノ爲メ權利者ハ印鑑ヲ金庫ニ差出シ置クヘシ
 權利者ニ於テ寄付シタル現金又ハ有價證券ノ拂戻ヲ受ケントスルトキハ取扱官廳ノ稟書ヲ爲シタル保管證書ヲ得テ金庫ニ差出シ
 拂戻ヲ請求スヘシ
 保管金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之カ計算ヲ爲スヘシ
 一 保管金期限及期滿失効ノ件 明治二十三年大藏省預金局長通牒 九月三日付
 (摘要) 保管金期限 裁判所豫納金、保釋金、財産公賣代金、差押金、差押物件賣却代等ハ裁判結了ノ日トシ當初期限未定ト
 シ追テ各官廳ヨリ通知スヘキモノトス、出納官吏身元保證金ハ轉免死亡ノ節責任解除ノ期ヲ以テシ期限未定トスヘシ、物品納買
 契約保證金等ハ契約期限ヲ以テス
 保管金期滿失効 拾得金 警察官拾得金一年 遺失物賣却代 人民拾得金三十一年 賊ノ拾得品公賣代等ハ保管ノ日ヨリ三十年、已決
 在監人所持金有期ノモノハ其期ヲ以テ保管義務解除ノ期トシ尙三十年ヲ以テ期滿失効トシ無期ノモノハ最初期限未定ト記入シ死

第二編 會計ニ關スル法令 第七章 領置金品保管

亡、特赦、大赦ノ時ヲ以テ保管義務解除ノ日トシ更ニ官廳ノ通知ヲ得テ期滿失効ノ期限ヲ定ム未決在監人所持金ハ裁判確定ノトキ期限ヲ定ムルモノニ付期限未定ト記入シ官廳ノ通知ヲ以テ期滿失効ノ期限ヲ定ム

保管期限及期滿失効ノ年月日ハ滿一年又ハ滿三十年ト記入セズ必ス年月日ヲ記入スルモノトス

一 預金規則 明治十八年布告第十三號 五月三十日發布

(摘要) 大藏省預金局ニ於テ保管スヘキモノ 一、隠匿局貯金 二、各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金 三、社團財團其他人民

共有金ノ預額ニ依ルモノ

預金ノ利子割合ハ大藏大臣之ヲ定ム

預金證書ハ買賣讓與書入算入スルヲ得ス

預金ノ受渡ニ關スル證書ハ證券印稅ヲ納ムルニ及ハス

一 預金取扱規程 明治二十六年大藏省令第十九號 九月二十日發布

(摘要) 預ケ金ヲ爲ストキハ現金ニ拂込書及印鑑ヲ添付シ金庫ニ差出スヘシ但第二回以後ハ印鑑ヲ要セス

金庫ニ於テ現金ヲ領收シタルトキハ預金通帳ニ記入證印シ之ヲ預ケ人ニ交付スヘシ

預ケ人ニ於テ預金ノ拂戻ヲ要スルトキハ領收證書ニ預金通帳ヲ添ヘ金庫ヘ差出ス可シ

一 在監人所持金預入拂戻ノ件 明治二十三年大藏省訓令第百十四號 十月二十七日發布

(摘要) 在監人所持金ハ預金規則ニ依リ(各官廳ノ成規ニ從ヒタル積立金)相預リ拂戻ノトキハ即時拂ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

(參考) 在監人給與工錢ハ預金規則ニ依リ預金局ニ預ケ入レ利殖セシムルノ方法ナルモ數多ク在監人ニ利子ヲ配分ナスハ配算

上ノ困難不少ニ付預金局ト協議ノ上無利子預入ノ事ニ取扱ハレ可然該ナリ但在監人所持金モ之ニ準ス 二十四年七月二十八日、八月四日內務省總務局長

通 則

一 預金局保管證書保管規則全文 明治二十六年大藏省訓令第一九八號 八月廿二日發布

第一條 官廳ニ於テ保管スル預金局保管證書ハ之ヲ保管スル所ノ部局長其保管ノ責ニ任スルモノトス

第二條 保管證書ハ鐵匣又ハ堅牢ナル函内ニ之ヲ收藏シ其鑰鑰ハ部局長之ヲ管守スルモノトス

第三條 部局長ハ一名ノ保管證書出納主任ヲ命シ鐵匣又ハ函ノ開閉ヲ掌ラシメ別ニ一名ノ立會員ヲ命シ是ニ立合ハシムヘシ

第四條 部局長ハ保管證書出納簿ヲ設ケ保管證書ノ出納ニ關スル一切ノ計算ヲ登記スヘシ

保管證書ノ出納ハ保管證書出納簿ニ證書ノ種類券面ノ金額並出納ノ事由等ヲ明細ニ登記シ部局長檢印ナシ後之ヲ執行スヘシ

部局長ハ毎月末日保管證書出納簿殘高ト保管證書ト對照點檢スヘシ

第五條 各省大臣若クハ北海道廳長官府縣知事ハ必要ト認ムルトキハ檢査員ヲ命シ保管證書ノ出納ヲ臨時檢査セシムヘシ

第六條 部局長ハ會計檢査院ノ要求アルトキハ保管證書出納計算書ノ謄本ヲ全院ニ送付スヘシ

一 公有金私有金寄托ノ件 明治二十三年大藏省訓令第七十八號 五月十日發布

(摘要) 本年勅令第二號(公有金私有金寄托スヘキ件)ニ依リ預金局ニ寄托スヘキ公有金、私有金ノ寄托ハ數日內ニ其交付又ハ

支拂フヘキ見込ナキモノニ限リ、拾得金未決因所持金ノ如キ數日間ノ保管ニ應スヘキモノハ全令ニ包含セサル議ナリ

一 在監人領置金品保管ノ件 明治二十七年內訓第四一三號 六月五日付

(全文) 在監人領置金品ハ確實ニ保管スヘキハ勿論ニシテ領置金ハ常ニ人別簿ト現金出納簿ト一致シ厘毛ノ差異ナカラシムル

ヲ要スルモ在々人別簿ト現金出納簿トノ照合ヲ等閑ニ付シ誤認違算ノ爲メ不都合ヲ生スル場合ナキニテ又其帳簿記入方ハ傳

票ニ依ルヘキモノナレハ人別簿ト現金出納簿トハ日時ニ登記スヘキ管ノ所其一ニ登記シ他ヘハ登記セサルカ如キ不整理ナシトセ

票ニ依ルヘキモノナレハ人別簿ト現金出納簿トハ日時ニ登記スヘキ管ノ所其一ニ登記シ他ヘハ登記セサルカ如キ不整理ナシトセ

ス就テハ將來一層注意シ右等兩帳簿照合ハ當時之ヲ爲シ誤謬ナキヲ期セラルヘシ又領置品保管ノ注意周到ナラスシテ汚損ノ患ナシトセス加之現品ヲ領置表ニ對照スルニ往々過不足ヲ生スル事實モ有之趣是又嚴重ニ注意監督セラルヘシ若シ領置金人別簿ヲ確實ナラシムル上ニ於テ彼是繁雜ニ涉ルノ虞モ有之トキハ明治二十六年十二月當省訓令第二十九號身分帳貨物表中現金ニ關スル事項ハ人別簿ヲ以テ代用スルコトヲ得

一 國稅滯納者領置工錢差押ノ件 明治二十七年大藏省指令 三月二十二日付

(摘要) 在監中領置工錢ハ國稅滯納處分法ニ依リ差押シ得ヘキモノトス 廢縣縣令

一 在監人隱匿貨物領置ノ件 明治二十二年內務省指令 十一月二十二日付

(摘要) 在監人隱匿貨物及他人ヨリ竊ニ之ヲ拾得所持シ又ハ獄內禁制品ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス領置シ置キ放免ノトキ下渡スヘキ義ナリ 京都府令

一 賊捨置品保管方ノ件 明治二十二年內務書記官通牒 六月二十日付

(摘要) 賊捨置金ニシテ裁判上證據ト爲スヘキモノハ預金局へ寄托セス適宜物品會計官吏ニ於テ保管スヘキ義ナリ 和歌山縣令

一 在監人所持金保管方ノ件 明治二十三年總務局長通牒 十一月廿二日付

(摘要) 在監人所持金ノ義ハ從來保管金トシテ大藏省預金局へ寄托スルコトニ相成候ニ付預金規則ニ依リ預金トシテ預入レ拂戻ヲ要スルトキハ即時拂ノ手續ニ依リ取扱フヘキコトニ大藏省訓令第四百十四號ヲ以テ改メラレ候尤モ他ノ官廳ニ送致スル場合ニ於テハ保管金取扱規程ニ依リ更ニ保管金ニ預替ヘタル上半年六月總甲第二三號通牒手續第三項ノ(次項參照)如ク取扱ヒ又其送致ヲ受ケタル官廳ニ於テ再ヒ預金ニ預ケ換ノ爲メ拂戻ヲ要スルトキハ拂戻金證明書ニ其事由ヲ記シ主任官吏ニ於テ拂戻ヲ受ケヘキ義ナリ

追テ預金トシテ預入ルモ利子ヲ付セサル向ハ預ケ入ノ際各廳ヨリ預金局ニ申出ツヘク又金庫支拂時限後若クハ休暇日等ニ際シ臨

時支拂ニ差支ヘ止ムヲ得サル場合ニ於テハ少許ノ現金ヲ引出シ置キ出納官吏ニ於テ隨意保管ヲナス義ハ不苦云々

一 囚徒所持金盜贓金送致ノ件 明治二十三年六月總務局長通牒 六月十二日付

(摘要) 預金本局又ハ金庫ヨリ發シタル保管證書ヲ以テ他ノ取扱官廳へ移シ又ハ他ノ金庫ニ於テ拂戻ヲ要スルトキハ取扱官廳ハ其事由書ニ保管證書ヲ添ヘ當初拂込ミタル預金本局又ハ金庫へ送件シ證書裏書ヲ受ケ之ヲ取扱官廳へ送付スルモノトス

一 前項ノ保管證書ノ送付ヲ受ケタル取扱官廳ハ該保管證書ヲ以テ拂戻ヲ要スルトキハ成規ノ如ク證書へ裏書調印ノ上權利者へ交付シ其官廳及取扱主任ノ印鑑ヲ金庫へ送付スルモノトス一旦印鑑ヲ交付シタルモノハ更ニ送付ヲ要セス

一 預金本局又ハ金庫ヨリ發シタル保管金領收證書ノ全部又ハ幾分ヲ他ノ金庫ニ於テ拂戻ヲ要スルトキハ取扱官廳ハ其事由書ヲ當初拂込ミタル預金本局又ハ金庫へ送付シ其承諾ノ旨ヲ受ケ他ノ取扱官廳へ領收證ノ記號拂戻ヲ要スル金額等ヲ通知スルモノトス

一 前項ノ通知ヲ受ケタル取扱官廳ニ於テ其保管ノ拂戻ヲ要スルトキハ成規ノ拂戻金證明書ヲ發スルモノトス 右ノ外囚徒給與錢ハ預金規則ニ依リ預金局へ委託スルモノナリト雖モ他ノ官廳ニ送致ヲ要スルトキハ改メテ保管金トシテ預入レタル上前記ノ手續ニ依リ取扱フモノトス

一 賊捨置金ニシテ犯證トナルヘキモノ保管方ノ件 明治廿三年內務大藏協通牒 十二月二日付

(摘要) 賊捨置金ノ内後日證據トナルヘキモノハ預金局ニ委託セス物品會計官吏ニ於テ保管シ差支ナキ義ナリ

一 囚徒工錢領置金支途ノ件 明治二十七年內務省指令 十一月五日付

(摘要) 囚徒工錢領置金ヲ以テ控訴豫納金ニ充テントトテ請フトキハ許可シ差支ナキ義ナリ 北海道廳令

一 押送規則關係領置金品押送方 明治三十年勅令第四百十五號 十一月廿四日發布

(摘要) 被押送者所持ノ金品ニシテ本人ト同時ニ押送スルモノハ左ノ例ニ依ル 一、物品ハ押送者ニ托シテ之ヲ押送ス但危險

第二編 會計ニ關スル法令 第八章 拘禁費

ノ虞レアル物品及押送者ノ携帶ニ堪ヘサル物品ハ此限ニアラス 二、貨幣ハ押送者ニ托セス保管令寄託替ノ手續ニ依リ之ヲ送致ス但五圓未満ノ金額者ハ押送期間一日以上ニ亘ラサル場合及刑事被告人ニ屬スル貨幣ニシテ本人ノ請求アルトキハ押送者ニ托スルコトヲ得(全則第三條)

前項ニ依リ送致中ノ貨幣物品ハ押送者ニ托スル場合ニ於テハ押送者爲ス各官署ノ保管ニ屬シ押送者ニ托セサル場合ニ於テハ發送官署ノ保管ニ屬ス(全則第四條)

刑事被告人ニシテ押送途中必要ナル物品又ハ飲食物ニ限リ所持金ヲ以テ自費購入ヲ許スコトヲ得(全則第七條參照)

(參考) 一、被押送者ト同時ニ押送スル金品ハ各押送官署ニ於テ物品會計規則ノ規程ニ從ヒ帳簿ニ之ヲ記入シ保管轉換ノ手續ニ依リ其受授ヲ明カニスヘシ 三十一年十二月二十七日 警保監獄兩局長通牒

押送途中刑事被告人所持金ヲ以テ物品ヲ購入スル爲メ領置金ノ支出ニ付テハ發送官署ニ於テ當該裁判官ノ允許ヲ受ケ其旨ヲ押送狀ニ記入スヘシ但購入物品ノ代價ハ其保管ノ金錢ヲ以テ之ヲ支辨シ本人ノ證認書ヲ附シ置クヘシ(押送細則第七條第八條參照)

第八章 拘禁費 付控訴人費 警察署留置費 押送費

一 拘禁囚費用區分ノ件 明治十四年太政官布告第十七號 三月八日發布

(摘要) 集治監ニ入ルヘキ者ノ費用ハ國庫ヨリ支辨スヘシ但府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

(參考) 徒刑流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服シ又ハ服セス但女囚ハ島地ニ發遣セス 刑律第十七條第十

一 在府縣囚徒費取扱ノ件 明治十七年内務省達乙第二十九號 六月二十日發布

(摘要) 集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者ノ費用トシテ一四一日ニ付金貳十錢ヲ國庫ヨリ交付スヘシ但朝夕出入アル者各一日ヲ以テ計算スヘシ

豫算書編製方ハ前々年度中宣告濟人員ニ依リ在府縣獄囚徒費ノ内囚徒在監諸費、押送費ニ分チ提出スヘシ

(參考) 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ本達ニ準據スヘキ義ナリ 省議決定一般へ通牒參照 二十七年四月廿七日

集治監ニ入ルヘキ者ノ費用ハ刑期ニ算入スヘキ日ヨリ國庫支辨トナスヘキ義ナリ 德島縣へ指令參照 十七年九月六日

地方獄ニ在ル囚徒ニシテ餘罪ノ爲メ徒流刑ニ處セラレタル者ノ費用ハ從來刑期算入ノ日ヨリ國庫ノ支辨ニ移シタルモ二十五年年度ヨリハ裁判確定當日ヨリ國庫費ニ移ス義ナリ 二十五年七月十一日 內務書記官通牒參照

徒流刑ノ宣告ニ對シ上訴豫納金免除ヲ與ヘサル時ノ費用區分ハ前例々決ノ當日ヨリ國庫費支辨タルヘキ義ナリ 二十四年七月二十日 鹿兒島縣へ指令參照

甲地ノ國庫費支辨囚徒控訴ノ未乙地ニ移サレ破棄ノ上再ヒ徒流刑ニ處セラレタル者ノ在監費ハ第一審判決ニ遡リ國庫支辨トナル

ナリ以テ控訴中甲地ハ乙地へ償却セシ在監費ハ其儘返付ヲ要セス甲地ヨリ直ニ國庫ニ請求スヘキ義ナリ 二十八年七月十三日 長野縣指令一般へ通牒參照

一 軍法會議處斷囚費用ノ件 明治二十七年内務省訓令第七號 二月二十七日發布

(摘要) 陸軍監獄條例第一條(現役ヲ離レサル軍人其官職身分ヲ失ハサル軍屬諸生徒)明文外ノ囚人ハ該軍法會議處所在ノ地方監獄ニ收監シ普通囚人同様取扱ヒ其費用ハ所屬監獄費ヨリ支辨シ囑托婦女ニ係ル費用ハ一日一入金貳拾錢ノ割ヲ以テ陸軍省へ請求スヘシ

一 控訴囚費用支辨ノ件 明治二十三年内務省令第五號 十月三十一日發布

(摘要) 重罪輕罪ノ判決ニ對シ控訴又ハ上告ニ依リ他ノ裁判所ニ移ス言渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁中ノ費用並ニ裁判確定後ノ囚人費用ハ總テ最前言渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費用ハ一日一金貳拾錢トス但汽車汽船ノ便アル地方ニ於テハ原地方總テ請求ニ依リ送還ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ押送官吏ノ旅費及囚人費用ハ請求地方ノ負擔トス

(參考) 囚人輕罪ノ爲メ甲地ニ於テ缺席判決ニ對シ故障申立乙地ニ移シ審理ノ末無罪トナリタル者ノ費用ハ檢事ノ囑托アリタ

第二編 會計ニ關スル法令 第八章 拘禁費

七十二

ルモノト見做シ乙地ニ於テ支辨スヘキ義ナリ 廿七年四月三十日茨城縣へ
 指令一般へ通牒參照
 控訴囚人ノ別房留置中ノ費用ノ原裁判地方ノ地方稅ヲ以テ支辨シ本人工錢ハ差額キ支辨スヘキ義ナリ 二十三年三月十四日
 石川縣へ指令參照
 再審ノ結果他地方ニ移サレタル者ノ拘禁費用ハ控訴囚ノ例ニ依リ原地方ヨリ支辨スヘキ義ナリ 二十九年四月八日福岡縣へ
 指令一般へ通牒參照
 集治監ニ入ルヘキ囚徒刑期限内餘額發覺シ又ハ重輕罪ヲ犯シ審問ノ爲メ地方監獄ニ拘禁中ノ費用ハ國庫支辨ニ屬スル義ナリ 二十
 月十一日福岡
 縣へ指令參照
 未決在監人ニ對シ徒流刑ノ缺席判決ヲ告知シタル場合ニ於テ其裁判官渡後ニ屬スル費用ハ國庫支辨タルヘキ義ナリ 全前
 甲地方ニ於テ徒刑ニ處セラレタル囚徒假留監へ押送途中逃走シ更ニ逃走罪ニ依リ輕罪ノ宣告ヲ受ケ更ニ控訴シ乙地ニ在監中ノ費
 用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ義ナリ 二十三年九月三十日
 警視廳へ指令參照

一 警察署分署拘禁又ハ留置者食料費ノ件 明治三十年勅令第二百六十三號 八月十四日發布

(摘要) 主務大臣ノ定ムル費額ノ範圍内ニ於テ適宜之ヲ給與スルコトヲ得

一 警察署分署拘禁又ハ留置者食料費ノ件 明治三十年內務省令第二十三號 八月十七日發布

(摘要) 一食金五錢以下トス

一 警察署留置場ニ拘禁スル者ノ費用區分ノ件 明治二十四年內務書記官通牒 三月十八日付

(摘要) 一、拘留狀ナキ一時ノ留置人ニ係ル費用 食費療養費其
 他一身上ノ者ハ警察費

一、換刑禁錮囚拘留囚及拘留狀ニ依リ留置スル者ノ費用ハ監獄費

一、留置場建築修繕費ハ警察費

一、留置場常置ノ器具及臥具ハ監獄費

一、本件ニ關スル事務費(筆紙墨文具、消耗品、備入料等)ハ警察費

第九章 工錢

一 監獄則關係 明治二十二年勅令第九十三號 七月十一日發布

(摘要) 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ初テ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ
 與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚、懲治人、刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ノ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス科程外ノ作業ヲ爲
 ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス但給與工錢ハ典獄之ヲ領置ス(全則第二十二條第二十三條)

(參考) 通算刑ノ者ニ對スル現役一百日間工錢ヲ支給セサルハ其一旦放免シタルト又繼續執行スルトナ間ハ前後ノ日數ヲ通
 算シテ一百日ヲ控訴スルノ義ナリ 二十九年一月廿日奈良縣
 高知縣同答一般へ通牒參照

第二編 會計ニ關スル法令 第九章 工錢

七十三

道ヲ常置器具ノ内令狀ナキ一時留置人ノ用ニ供スルコトアルモ是等ハ監獄費ヲ以テ備付チナスモノニ付別ニ費用ノ區分ヲ要セ
 ス本文ノ通リ取扱差支ナキ義ナリ

一 押送規則關係押送費 明治三十年勅令第四百十五號 十二月廿四日發布

(摘要) 囚人刑事被告人ノ押送費用ハ各押送ヲ爲ス各官署ノ區別ニ從ヒ各其所屬經費ヨリ支辨シ囚人ノ送還ヲ請求シタルトキ
 ハ請求地方ノ負擔ニ屬ス

集治監ニ於テ執行スヘキ囚人ノ押送費用ハ在府縣監獄囚徒費ヲ以テ之ヲ支辨ス(以上全則第五條)

被押送者ノ食費ハ警察署分署ニ於テハ留置人ノ例(一食金五錢以下)ニ依リ其他ニ於テ宿泊セシムルトキハ總テ實費額ニ依ル此揚

合ニ於テハ臥具點燈料等トシテ一夜金十錢食費ハ一回金拾錢ヲ超ユルコトヲ得ス(全則第六條全則第六條參照)

(參考) 證人參考人トシテ出廷シタル囚人ノ押送費ハ押送チナス各官署ノ區別ニ依リ各其經費ヨリ支辨シ裁判所ヨリ償却ヲ受
 ケタル金額ヨリ實費ヲ引去リ地方稅雜收入ニ編入シ尙殘餘アルトキハ典獄ニ於テ領置シ置キ放免ノ際下付スヘキ義ナリ

第二編 會計ニ關スル法令 第九章 工錢

一 特典減等又ハ非常上告ニ依リ罪名ニ異動ヲ生シタルトキハ御裁定又ハ判決ノ日ヲ分界トシ給與工錢ノ割合ヲ變更スル義ナリ
二十五年六月廿九日
長野縣ヘ回答參照

一 屏禁處罰中ノ者ハ總テ工錢ヲ給與セサル義ナリ 二十五年七月九日
内務書記官ヨリ一般ヘ通牒

一 監獄則施行細則關係 明治二十二年内務省令第八號 七月十六日發布

(摘要) 各種ノ工錢ハ其地普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應ジ一日若干ト定ムヘシ(全則第五十一條)

一 免役日ニ於テ囚人ヲ炊事、掃除、病者ノ看護其他監獄ノ用ニ使役スルトキハ科程外ノ工錢(十分ノ六)ヲ與フヘシ(全則第五十二條)

一 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ(全則第五十三條)

一 囚人懲治人ニシテ作業ニ勉勵シ食費ヲ償フニ足ル可キ工錢ヲ得ル者ニハ其請ニ依リ領置工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但購給度數ハ一月十回以下トシ一回金三錢ヲ過ルコトヲ得ヌ(全第六十二條第六十三條)

一 獄務概則關係 明治二十六年内務省訓示 五月三十日付

(摘要) 料定工錢ハ少トモ三ヶ月ニ一回其地同業者ノ賃銀又ハ所得ニ對照シ調査料定スルヲ要ス

一 給與工錢ハ翌月五日迄ニ調査スルヲ要ス

一 屏禁處罰中ハ工錢ヲ給與スルノ限ニアラス

一 食物購求ヲ許シ得ヘキハ前月間工錢額其月ノ食費額以上ノ者ニ限ル

一 食物購求ハ處罰中並處罰後一ヶ月乃至二ヶ月間之ヲ許可セサルモノトス

一 購求食物ハ一回一食ノ量ニ限ル(以上全則第五十三條乃至第五十八條)

(參考) 租稅滯納者ノ内犯罪ニ依リ現ニ入監中ノモノアリ國稅滯納處分法ニ依リ領置ノ給與工錢ヲ差押ヘ得ヘキヤト云フニ全

第十章 慈惠費

一 監獄則關係 明治二十二年勅令第九十三號 七月十二日發布

(摘要) 囚人、懲治人、刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一ケ年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者、死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ(全條第二十四條)

一 慈惠費收支方ノ件 内務省訓令第二十三號 六月十七日發布

(摘要) 監獄則第二十四條ニ依リ慈惠ノ用ニ充ツヘキ貨物ハ追テ開ク所ノ府縣會ノ決議ヲ經テ地方稅雜收入ニ編入シ其金額ハ監獄費内譯ニ慈惠費ノ科目ヲ設ケ支辨スヘシ

(參考) 慈惠費ニ充ツヘキ領置貨物アルトキハ之ニ對スル歲入歲出豫算ヲ府縣ニ付議シタル上之ヲ覆却シ其年度ノ支出ニ立テ若シ其年度ニ於テ支出ヲ要セサルカ又ハ支出殘餘ヲ生シタルトキハ一般ノ殘餘金ト區分シテ翌年度ヘ繰越シ其年度ニ於テ更ニ豫算ヲ設ケ支出ニ立ツヘキ義ナリ 三十年四月八日
青森縣ヘ縣治局長回答

一 慈惠費途ノ件 明治二十三年内務省通牒 五月二十日付

(摘要) 慈惠ノ費途左ノ如シ 一、在監中改悛ノ狀顯著ナルモノニシテ出獄ノ際亦貧者衣ナキ者ノ衣類 二、歸郷資力ナキモ

法第十八條差押フルコトヲ得サル項目中ニ明示ナキヲ以テ之ヲ差押フルコトヲ得ヘキ義ナリ 二十七年三月十四日
廣島縣ヘ大藏省ヨリ指令參照
一 領置工錢ハ民事訴訟法第六百十八條第六號ノ勞役ニ依テ得ル所ノ工錢ナルヲ以テ金三百圓以内ハ之レカ差押ヲ拒ムコトヲ得ル義ナリ 二十八年七月十日
北海道集治監ヘ指令參照
一 給與工錢收支ノ件 明治二十一年内務省訓令第二十二號 十月十六日付
(摘要) 監獄則ニ依リ在監人ニ給與スル工錢ハ自今府縣會ノ議決ヲ經、監獄費内譯ニ給與錢ノ目ヲ設ケ之ヲ支拂ヒ其工錢ハ監獄費雜收入ニ編入スルコトヲ得

ノ、旅費 三、服役ニ依リ負傷シ出獄ノ際無資力者ノ療養費四、出獄人保護會社ノ惠與等 五、其他餘裕アレハ死亡因ノ供養費
縣ニ慈善費ニ餘裕アルトキハ看護費總購入費ニ使用スルモ差支ナシ 二十八年十一月七日
指令 宮城縣ニ關シ

會計法規 終

統計學大意

第一章 緒言

宇宙ノ現象ハ森羅萬象ニシテ萬物ノ形質ハ錯綜複雜ナリ、然リ而シテ此森羅複雜ナル社會ノ現象ニ就
 キ之ヲ研究シ之ヲ精査スルハ個人ノ力能ク之ヲ遂クル能ハサルハ素ヨリ論ヲ俟タスト雖モ、大ハ以テ
 經國ノ爲政家タルト小ハ以テ一家庖厨ノ事ニ任スル僕婢ノ輩ニ至ル迄皆收入ヲ計リ支出ヲ爲スニアラ
 サレバ國家ノ隆盛、一家ノ繁榮ヲ期スル能ハサルハ事理ノ當然ナリトス、故ニ若シ一朝經綸齊家ヲ誤
 ルコトアラシカ國家ハ遂ニ衰頹ヲ來タシ一家ハ將ニ傾倒ノ厄ニ陥ラサルモノ殆ンド罕ナリ、果シテ然
 ラハ吾人カ世ニ處シ事ニ任スルニ當テハ頭腦ノ許ス限リニ於テ又可成簡便ナル手段ニ依テ社會事物ノ
 現象ヲ一目ノ下ニ知悉スルノ方便ヲ講セサルヘカラス、方便トハ何ソヤ曰ク統計ニ關スル智識是ナ
 リ統計トハ原語ノ「スタチスチック」ナル語ヲ翻譯セシモノニシテ譯語ノ當否ニ就キ往々學者ノ間ニ
 論争アリト雖モ开ハ枝葉ノ論ニ涉ルヲ以テ姑ラク吾人ハ此統計ナル語ニ満足セサルヘカラサルナリ
 右ノ如ク統計ハ社會事物ノ盛衰消長ヲ鑑識スル唯一ノ簡便方法タルヲ以テ斯業ヲ研究スルノ必要ヲ感
 シタル結果トシテ統計ヲ以テ専門ノ科學トシテ社會ニ公表セラレタルハ西曆千六百六十年代ニ於テ獨

逸ノ大學教授ヘルマン、コプリング氏ニ依テ初テ獨逸大學ニ講述セラレタルヲ以テ實ニ其鼻祖ナリトス、爾來今ニ至ル迄二百三十餘年間繼續シテ復廢絶セシコトナシト雖モ我國ニ於ケル斯學發達ノ尙遲々トシテ進歩ノ域ニ達セサルハ具眼者ノ共ニ憂フル所ニシテ斯道ノ先輩諸士カ深憂スル所亦實ニ茲ニアリトス

第二章 統計ノ意義

世人勦モスレハ統計ノ尊フヘク且重クヘキ事理ヲ能ク解得セス統計ハ只數字ノ排列表記ノミト之ヲ輕視スルノ傾キアルハ識者具眼者ノ共ニ憂フル所ニシテ斯學ノ進歩セサル所以亦之レニ外ナラサルナリ吾人試ミニ統計ノ意義ヲ宣明セントス抑モ統計ニ二様ノ意義アリ第一統計トハ事物研究ノ目的タル材料其モノヲ云ヒ第二其之ヲ研究スル方法ヲ云フ即チ之ヲ換言スレハ第一社會上ニ顯出若クハ存在スル物體ニ付テ計數的材料ノ蒐集ヲ云ヒ第二ハ其蒐集シタル材料ノ外種々ノ材料ヲ集メ若クハ之ヲ研究スル觀察方法ヲモ稱シテ統計トナスニアリ、例ヘハ犯罪人ノ多少、囚人ノ増減及其原因並其獄制ハ社會ノ狀況ニ照シ如何ナル關係ヲ有スルヤ又ハ時世ノ變遷ニ伴ヒ改廢アルコトナキヤヲ研究シタル結果ヲ統計ト云ヒ又ハ之レカ材料ヲ集メ及之ヲ研究スル方法ヲモ統計ト稱スルナリ、然レトモ世間普通ニ統計ト稱スルトキハ只其材料ノミヲ指シタル語ニシテ其原因結果ヲ究ムルモノニアラス若シモ其材料

ノ蒐集ノミヲ統計ナリトスレハ素ヨリ專門ノ科學トシテ之ヲ論スルノ價ナキニ至ル何トナレハ材料ナルモノハ社會ノ情況ニ應シ時々刻々動搖シテ止ムトキナク從テ其蒐集シタル材料ハ何等ノ用ヲ爲サスシテ只單ニ勞力ト費用ヲ徒消シタル結果ニ終ルヘケレハナリ故ニ統計學トハ諸種ノ材料ヲ蒐集シ之ニ依テ以テ社會事物ノ盛衰消長スル原因結果ヲ研究スルヲ併稱スルナリ

學者統計ノ發達其目的ヲ論シテ曰ク統計學トハ國家生活ト社會生活及天然の、人為的諸現象トヲ計數的ニ集計シ之ニ説明ヲ付シ其蘊奧ヲ究ムルニアリ、而シテ其研究ハ理論ニアラスシテ寧ロ實際上ノ問題ヲ研究スルニアリ(コイツェン氏所說)之ヲ敷衍スレハ種々ノ事物中苟モ數學ヲ以テ計量シ得ヘキ事物ヲ比較類集シ之ニ説明ヲ付シ其原因ヲ實際的ニ研究スルニアリ、例ヘハ其年ノ豊凶ニ依リ物價ノ昂低ヲ察シ從テ生活ノ難易ヨリ犯罪ノ多寡ヲ推究スルカ如シ其他統計ノ材料トナルモノハ天然上ノ現象即チ氣候ノ寒暄、地味ノ肥瘠、水利ノ便否等ヨリ人口ノ増減及人口ヲ保存スル社會ノ狀況即チ人類ノ年齡、宗教、職業、出産、死亡、結婚并ニ國家ノ組織方法、兵力財政、輸出入ノ實況ヨリ施イテ農業、製造、貿易、交通等ノ事業ヲ獎勵スル人類ノ勤勞、資本、生産、消費ノ實況ヨリ起業力、德義、共同力、社會并宗教上ノ關係等皆統計ノ材料トナルモノナリ

之ヲ要スルニ統計學ニ關スル一般ノ學說ハ二派ニ分ル甲者ハ曰ク統計學トハ人類社會ノ現象ニ付テ講

究スルモノニシテ統計上ニ用ユル方法ノ如キハ只其學科内ニ於テ事實ヲ證明スル一ノ機關ニ過キスト
乙者ハ曰ク統計ハ事物ヲ證明スル方法ハ論理的方法ト其技倆ト相待テ斯學ノ深邃ヲ組織スル者ナレハ
社會無限ノ事實ヲ表章スルハ只適法ナル學術上ノ説明ト將來ノ模範トナルニ過キスト云フニアルカ
如シ

第三章 統計ノ効用

統計ノ効用ヲ論スルノ學者多シト雖モ就中ヒツセリング氏ノ統計効用論ノ一節ヲ左ニ掲ケ吾人ノ説明
ニ換ヘント欲ス津田真道氏譯
表記提要所載

統計ノ目的トスル所ハ真正明確ナル事實ヲ檢知シ善ヲ取り惡ヲ捨テ古來慣習ノ事ト雖モ其實、理ニ
悖戻スルコト明晰ナル者ハ務メテ之ヲ改革スルニアリト例ヘハ奴隸ノ賣買、阿片ノ輸入又ハ保護稅
ノ廢止等ノ如シ氏ハ又同書ニ於テ尙其論ヲ繼續シテ曰ク

夫レ統計ノ目的トスル所斯ノ如クナレハ其人間ニ裨益アルコト洪大ナリ就中執政大臣ノ爲ニハ眞ニ
缺クヘカラサル寶典タリ羅馬ノ先哲シセロ氏曰ク元老議政ノ官員ハ通國ノ形勢ヲ知ラサルヘカラス
形勢ノ字其該ル所極メテ廣シ本國ノ兵勢如何、(人口調ニ依リテ之ヲ知ルナリ)財政如何、(財政統計
ニ依リテ之ヲ知ルナリ)又同盟國ハ何等ノ國ナリヤ、(何等ノ國タルヲ知ラント欲セハ其國百般ノ統

計ヲ知ラサルヘカラス)有事ノ日ニ當リ其援軍幾許ヲ得ヘキヤヲ知ラスンハアルヘラスト云ヘリ凡
ソ何レノ國ニテモ當路ノ君子法ヲ制シ令ヲ出スニ丁リ豫メ本國實有ノ形勢ヲ知ルコト肝要ナリ兵備
ヲ修ムルニハ財產貨物民力ノ多寡ヲ知ラサルヘカラス(例ヘハ田畑反別戸數等ノ如シ)獄舍ヲ設ケル
ニハ罪人ノ數ヲ知ラサルヘカラス又交易航海ヲ盛大ニセント欲セハ審ニ本國並ニ隣國ノ交易航海ノ
事狀ヲ知ラサルヘカラス若シ夫凶荒ノ患アリテ政府救災ノ法ヲ設ケント欲スルニハ、國民所需ノ穀
類ト之ヲ外國ヨリ購求スル費用トヲ知ラサルヘカラス統計ニ檢討從事スル唯此ニ止マラス唯一時或
ハ一國ノ形勢事實ヲ知ルノミヲ以テ足りトセス之ヲ往昔又ハ外國ニ比較シテ其異同ヲ熟察スルヲ要
スル事アリ本國ノ人口往時ト比較シテ増減ノ如何ヲ知ラント欲スルニハ目今ノ人口數ヲ十年前或ハ
二十年乃至三十年前ニ計算シタル所ノ人口數ト比較スヘシ又新ニ法ヲ制シ令ヲ出シテ其得失如何ヲ
知ラント欲セハ法令頒布前ノ形勢ト頒布後ノ事狀トヲ比較スヘシ(中略)若シ夫レ事論ノ是非孰レカ
決シ難キ時ハ比較統計ニ就テ實蹟効果ヲ見レハ其利害得失直ニ判然明瞭ニシテ疑ヲ容ルヘカラス、
故ニ比較統計ハ法律ノ是非得失及ヒ他ノ事件沿革ノ善惡ヲ判スル試金石ニ比スヘシ又舊法ノ改正ス
ヘキ事ヲ徵證シ又悖理ノ論說ヲ駁シ古來ノ臆說ヲ照破スル明鏡ニ擬スヘキナリ、夫レ事物ヲ經驗ス
ルコト月ヲ累テ歲ヲ歷ルニ由テ其事物ニ終始本未アリテ脈絡互ニ貫通スルコトヲ知リ以テ人生ノ景

象變化ノ功用齊シク一定ノ規矩アルコトヲ發明スルニ至レリ而シテ此發明ニ因テ吾人ノ學識ヲ長シ
 人間ノ利用ヲ弘大ナラシム其裨益亦大ナラスヤ蓋シ是レ統計學結局ノ目的ナリ星學士天体ノ運歩
 ナ實驗シテ遂ニ星体ノ運行ヲ統轄スル所ノ天律ヲ發明スルニ至レルカ如ク統計學士モ亦相生息スル
 人間社會ノ事實ヲ歷驗シテ以テ吾人ノ生活ト作業ト上ニモ亦タ之ヲ統轄スル所ノ自然ノ天律アルコ
 トヲ覺知スルニ至リ天文學士ノ發明スル所、人間仲間ニ大利益ヲ爲シタルカ如ク統計學士ハ人ノ生
 活作業ヲ統轄スル所ノ天律ヲ檢知シ人間仲間ニ利用厚生ノ道ヲ與セリ右天律作用ノ經檢ニ依テ人間
 各般景象ノ發見ヲ前知シ豫メ禍災ノ艱難ヲ減少スル方略ヲ設クルコトヲ得ヘシ、夫ノ暴風、破船、噴
 火等ノ天變モ既往ノ事實ニ照シテ將來ノ損失ヲ計算スルコトヲ得ヘシ、是レ諸般ノ保險會社ノ由テ
 起ル所以ナリ又各國ノ人民中ニ於テ男女及既婚、未婚、生者、死者比例ノ數概スルニ一定ノ確律ア
 ルコト事實ノ經歷ニ依テ知ルヘク貴賤ノ地位並ニ各種ノ產業ハ因テ男女ノ命數長短アルコトヲ概知
 スヘシ是レ生涯年金養老金、孀婦金、保命金等ノ金額ヲ算定スル所以ナリ又國中ニ何等ノ惡業尤モ
 多ク又何等ノ犯罪ハ男女中孰レカ多ク、又年齡ニ依テ所犯ノ罪ニ多少異同アルコト是レ亦タ歷年ノ
 經驗ニ依テ其梗概ヲ知ルヘシ是レ刑律ヲ定メ獄舎ヲ作り警保ノ規則ヲ立ツル爲メニ必要ニシテ欠ク
 ヘカラサル所以ナリ

又ガルニ一氏著ノ統計入門(高橋二郎氏譯)ニ左ノ如ク云ヘリ

統計ハ計數ヲ以テ解明スル社會事實ノ智識ニシテ事ノ眞實ヲ人ノ心ト目トニ示スモノナリト論セシ
 モノハ誰ソヤ此言タル能ク統計學ノ目的タル効用ノ濫與ヲ盡セリト云フヘシ、國ノ政治及行政上ヨ
 リ之ヲ見レハ統計ノ事タル或ハ將ニ行ハントスル方略ト宜シク回避スヘキ誤謬ノ指針トナリ或ハ既
 ニ行ヒタル効績ノ如何ヲ考察シ進歩ノ實効ヲ得タルモノ又ハ誤謬ノ増加セシモノヲ證明スル所ノ試
 金石ト云フヘシ蓋シ統計ハ其材料ノ一種タル會計ニ因テ諸般ノ事實ヲ括約類集シ以テ一國ノ工業、
 商業、財政、道德ノ景況ヲ表明スルモノニテ其結果ハ世間ノ公益ヲ擔任スルモノニハ恰モ枕上ニ銘
 スル有益ナル格言ニ齊シカルヘシ(中略)クトレー氏ノ言フ所ニ依レハ、ハイルヴォルドノ獄舎ニ於テ千
 八百二年ヨリ同四年マテ三年間囚人ノ死去セシコトハ眞ニ驚クニ堪ヘタリ世ノ最モ猖獗ヲ極メタル
 疫癘ト雖モ斯ク人民ノ死亡セシコトナク又戰鬪ノ最モ劇烈ナルモノト雖モ斯ク兵卒ノ陣沒セシモノ
 ナカルヘシ此獄舎ニ於テ年々死亡ノ數ハ蓋シ四人ニ付三人ノ比例ナリシ豈ニ驚クヘキニアラスヤ其
 災厄タル畢竟獄舎ノ處置宜シキヲ得サルニ出ツルモノナリ、然レトモ千八百五年ニ及ンテ要用ナル
 改革ヲ行ヒ之ニ依リ死亡ノ數稍々減少スルニ至リ後二年ニ及ンテ平常ノ景況ニ復スルコトヲ得タリ
 クトレー氏此事ヲ論シテ曰ク此ノ如キ事實ヲ表明スルヲ以テ其責任トナス一科ノ學ハ明君ノ眼ニ於

第三章 統計ノ效用

八

ヲハ敢テ之ヲ無益視スルコトヲ知ラサルヘシ、然リト雖モ統計ヲ論スルニ當リ國ノ政治又ハ行政上トノ關係ノミヲ以テスル時ハ未タ其效用ノ全体ヲ盡サ、ルヘシ統計ハ獨リ政治上ノコトノミナラス世間私益ノ方向ト處務上トニ於テ頗ル要用ナル裨益ヲナスモノニテ其調査スル所ノ事實ト其證明スル計數トハ商業、工業、農作、製造ノ事及百般ノ起業中多數社員ノ資本ヨリ成立スルモノ、外極メテ單純ナル勞力ノ組織ニアラサレハ使用セサルモノノ如キニ至ル迄其方向ヲ指導スヘキノ具タラサルハナク世間諸工人ノ爲メ要用ナル指導ニシテ或ハ直接又ハ特別ニ人ヲ教ユルコトナキモ一般ノ教育上ニ有益ナル勢力ヲ施コスモノニシテ凡ソ事物ノ性質如何ヲ諸人ニ知ラシムルニ於テハ統計學與リテ効アリト云フヘシ云々

第四章 統計ノ方法

統計ハ數學ニ等シク一定ノ事物現象ヲ數量ノ上ヨリ測定スルコトヲ講スルモノニシテ計數的研究方法ノ目的ニ左ノ三問題アリ

第一 各事實ヲ計算シ以テ其問題ニ充分ナル觀察事項ヲ蒐集スルコト

第二 蒐集事項ノ計數ヨリ割合數ヲ算出シ之ヲ同一尺度ニ改算シ以テ他ノ蒐集數量ト對比シ又ハ最初發見ノ計數ヨリ平均數ヲ算出シテ彼是通有ナル計數ヲ搜リ事物ノ一定ヲ期シ群類ノ多少、狀態ノ

如何ヲ知ルコト

第三 各確定セル計數ヲ適實ニ比較シ以テ研究事項ノ一定ナル關係ニ推及シ所謂狀態ニ依リ増減アルノ實際事實及法則ヲ解剖スルコトヲナスヘシ

統計研究ノ方法ハ研究事物ノ各事實ヲ計量シ其所得ノ數量ニ依リ對數(每百ニ對シ)平均數等ヲ求ムルニ加減乘除ノ方法ヲ要スルノミ決シテ繁雜困難ナル事ニアラス只統計研究ノ事實現象ヲ異ニスルコトアリ、從テ其得タル計數ニ依リ確實ナル成績ヲ追究スルハ至テ難事ニ屬ス而シテ其觀察ノ不完全ニシテ不熟練ナルハ其結果危險多キコトヲ記憶セサルヘカラサルナリ

計量ハ輕易簡單ナルモノナルモ是レ決シテ統計ノ主要ニアラス、故ニ統計ニ從事スル者ハ須ラク勞力ト時間トヲ徒消セサルコトヲ要ス、即チ事物ヲ適切ニ探擇シ以テ其事物ノ解釋ヲ一定シ如何ナル材料ヲ要スルカヲ察シ其事件ノ計量ノ方法及之ヲ分類スル所以ヲ詳カニシ其成績ヲ品定スルコト亦決シテ不偏不黨ニ陷イルコトヲナキヲ要ス

統計材料比較ヲ爲スニ當リ注意スヘキ事項左ノ如シ

一 研究事項ハ觀察正確ニシテ必ス同一種ノ事項ナルコトヲ要シ比較シ得ヘキモノタラサルヘカラ

九

- 一 比較スヘキ計數ハ其現象其事物ノ不動、變動ヲ察シ之カ論斷ヲナサ、ルヘカラス
- 一 事物ノ狀態即チ年齡、民族、地方、氣候等何ニテモ測定セル成績ハ相互間ニ比較スヘキ性質ノモノナルヘク又ハ比較シ得ヘキモノダラサルヘカラス

統計材料ノ分類ハ一般ノ規制ヲ設ク難シ何トナレハ其類別ト區分ノ根據ハ各其研究ノ問題ニ依テ異ナレハナリ然レトモ以上ノ方則ヲ標準トシ材料ヲ蒐集セハ竹木接續ノ誹ナキニ庶幾カラシカ

統計學大意終

監獄官教科書跋

監獄ノ事業ハ政治問題トシテ且社會問題トシテ將々財政及宗教問題トシテ一日モ討究改良ヲ怠ルベカラス、而シテ其關係スル所、極メテ廣且大ナリト謂フベシ、爰ナ以テ歐米諸國ハ既ニ十八世紀ノ末葉ニ於テ銳意之ガ改良ヲ企圖シ今日ノ進歩ヲ致シタリト雖モ歴史ハ明カニ困難ト耐忍ノ結果タリシヲ證明セリ、監獄改良ノ業、至難中ノ難事タルヤ知ルベキナリ、而シテ歐米各國ニ於ケル監獄改良ノ沿革史ヲ見ルニ何レモ我國トハ全ク趣ヲ異ニシ彼ノ國ニ於テハ改良ノ聲、博愛慈善有志ノ間ニ起リ人類當然ノ義務トシテ熱心ニ社會ニ訴ヘ遂ニ政府ヲシテ默止シ能ハザラシメタリシナリ

ニ
翻テ我國ノ狀況ヲ觀レハ文明、日ニ進歩シ生計ノ程度愈々高キヲ
加ヘ、人事複雑ヲ極メ犯罪ノ數愈々増蕪シ政府之レカ救濟改善ニ
銳意熱心ナリト雖モ社會ハ之ヲ冷淡ニ看過シ一滴ノ熱血ダニナ
キガ如シ、洋ノ東西、文野其度ヲ同フセザルニ因ルト雖モ亦々驚ク
ベキ現象ニアラズヤ

我國ノ狀態已ニ此ノ如クナリシニ依リ隨テ身ヲ斯學ニ投シ專攷
以テ其蘊奧ヲ極メントスル者ナク又教科ノ資ニ充ツベキ書籍ノ
如キモ小河氏ノ著書ヲ措テ今日ニ至ル迄絶テ他ニ適切ノ書アル
ヲ聞カス余ノ常ニ痛惜シテ措ク能ハザリシ所ナリ、今ヤ僚友中村
襄、三浦貢、上田定次郎ノ三氏茲ニ見ル所アリ、頃日一書ヲ著シ名ケ
テ監獄官教科書ト謂フ、稿成リ余ニ示ス余之ヲ一讀スルニ文章簡

明、理義明晰最モ實用ニ適シ斯道ノ金科玉條タルハ炳トシテ疑フ
ベカラス、官務ノ餘暇、此大業ヲ成就シ斯道熱心家ノ爲メニ寢食ヲ
忘レ此良師ヲ與ヘラレタル三氏ノ辛苦精勵誠ニ敬服ノ至リニ堪
ヘズ、説ク所、高妙ニ失セス、大綱ヲ網羅シ眞義ヲ漏サズ、精疎度ニ適
ヒ、分類宜シキヲ得タリ、實ニ得難キノ良書ト謂フベシ、若シ職ヲ治
獄ニ奉ズルノ諸氏常ニ本書ヲ坐右ニ置キ攷究怠ルナクンハ行刑
ノ眞理ヲ昭カニシ、刑罰ノ要義ニ副ヒ、且ツ改正條約實施ニ丁リ法
治國人ヲ拘禁スルニ及ンデモ處遇ヲ誤リ、國際上ノ紛擾ヲ起シ、國
家ノ體面ニ關スルガ如キ處ナキハ勿論、明治三十年勅令第二百十
五號及同年內務省訓令第十四號考試規定ニ依リ撰拔試驗ヲ受ク
ル上ニ於テモ直接裨益スル所、尠少ニアラザルベシ

余ハ此ノ如キ良書ノ世ニ公ニセラル、ヲ喜ヒ併セテ本書ノ普及
ト著者ノ目的ノ貫徹トナ切ニ冀望シテ止マザルナリ

明治三十一年九月

山上義雄

明治三十一年九月二十七日印刷
明治三十一年九月二十七日發行

定價金壹圓



著述者

東京市麹町區富士見町六丁目拾二番地

同

中村 同 區上六番町三十六番地

同

三浦 同 小石川區春日町四十六番地

發行者

上田 同 四谷區愛住町二番地

印刷者

磯村 同 麹町區內幸町二丁目百五番地

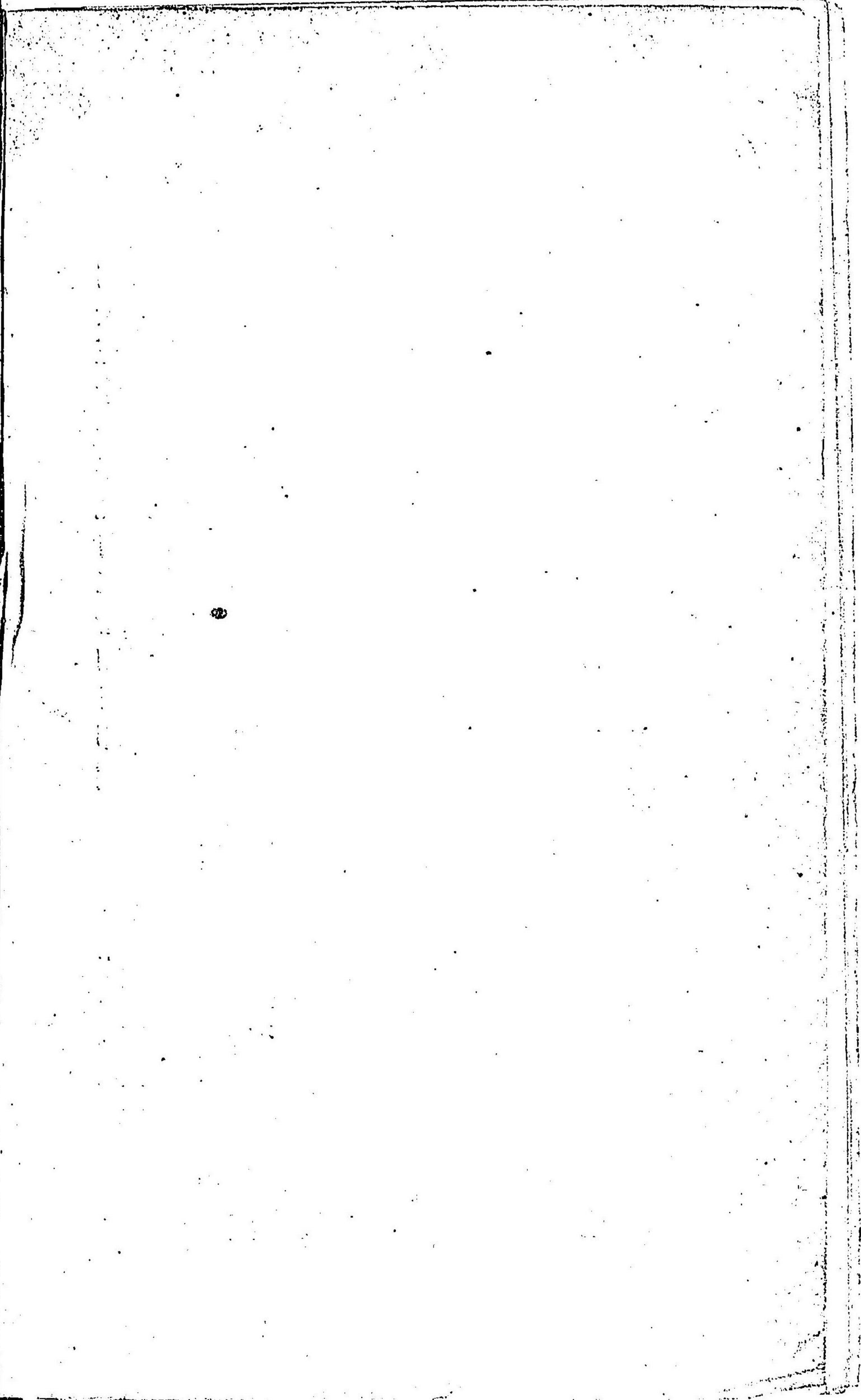
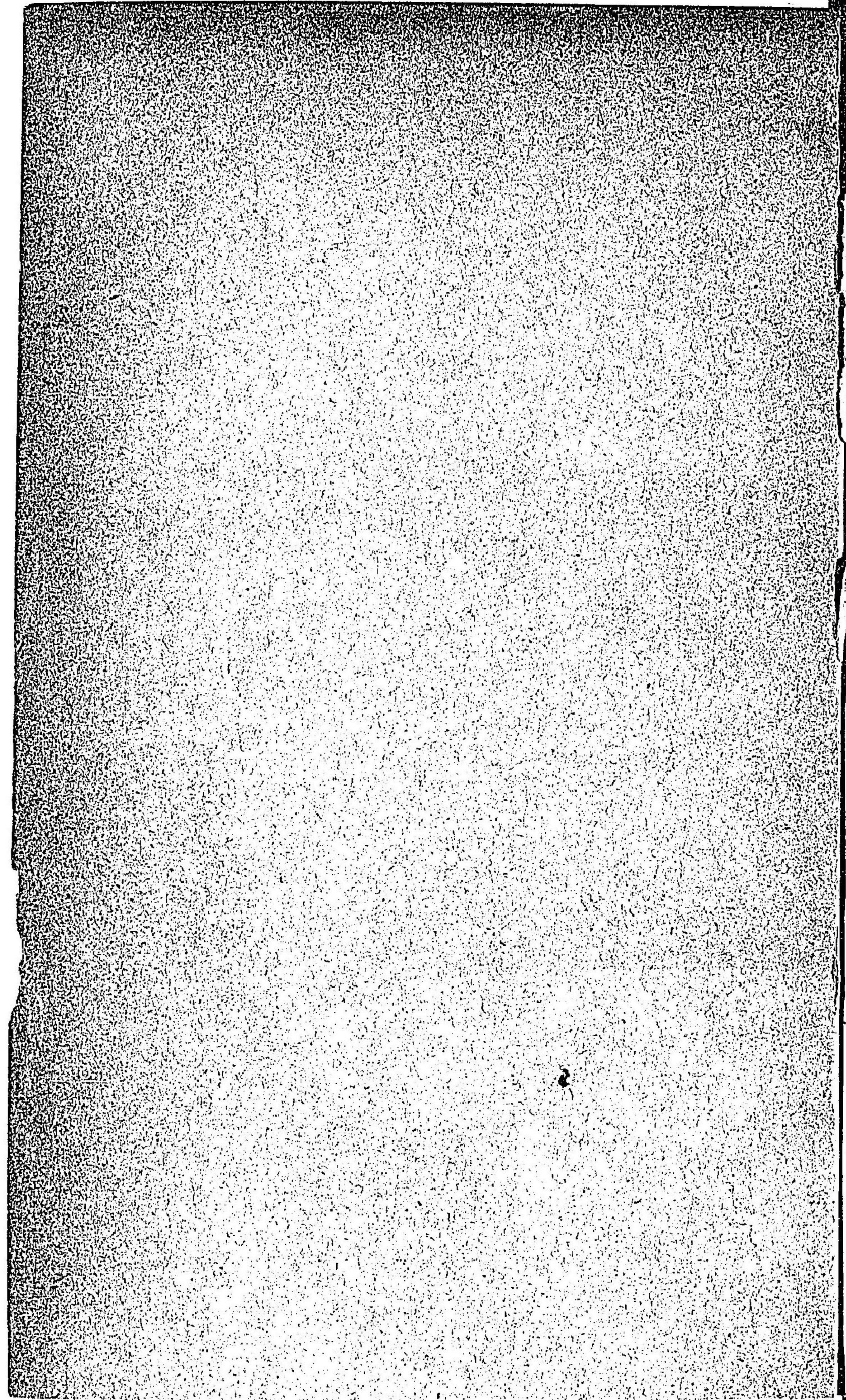
印刷所

多田 同 同 區內幸町一丁目五番地

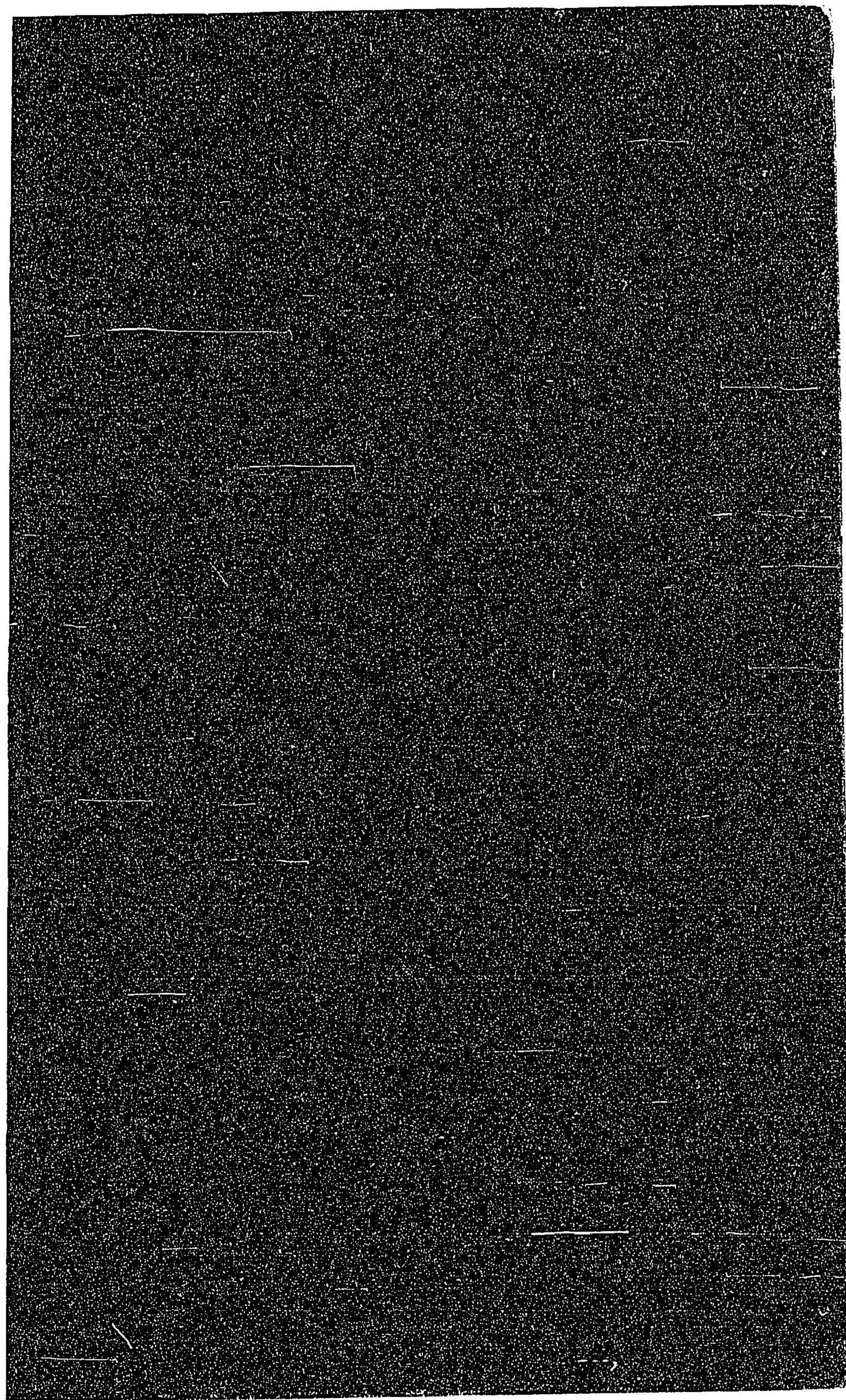
東京市四谷區愛住町二番地

發行所

警察監獄學會



79
182



79

182

037254-001-3

79-182

監獄官教科書

中村 襄 / 等著

M31, 32

BBT-0062



